

工 藝

電子書籍版

●監修・解説Ⅱ水尾比呂志(元・日本民藝協会会長)

不二出版

『民藝運動』一〇〇周年記念企画！

柳宗悦らが遺した貴重な文化遺産、
我が国唯一の工芸美学研究雑誌『工藝』をデジタル化し、
全文検索機能を付してオールカラーで再現！

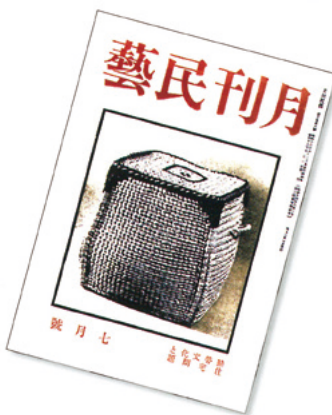
『工藝』電子書籍版概要

- 発行所 聚楽社／日本民藝協会／靖文社／日本民藝協会「工藝」編集室／日本民藝協会
- 収録内容 第1号(昭和6年1月)～第120号(昭和26年1月)
- 原本提供 日本民藝協会／日本民藝館
- 解説 水尾比呂志(元・日本民藝協会会長)
- 推薦 鶴見俊輔(哲学者・故人)
- 発売 2026年7月一括刊行
ISBN978-4-8350-5990-7



★本書は電子書籍です。
KinoDen のサービスでご購入になれます。
定価：
●同時1アクセス 本体 **380,000 円**+税
●同時3アクセス 本体 **517,000 円**+税

近刊のご案内



日本民藝協会発行(昭和14年/昭和22年刊)

月刊民藝・民藝

電子書籍版

●解説Ⅱ水尾比呂志・尾久彰三・杉山亨司・村上豊隆・白土慎太郎

●総4,930頁

●定価

同時1アクセス 予価250,000円+税
同時3アクセス 予価375,000円+税

●2026年度刊行予定！

●推薦Ⅱ大城立裕・鶴見俊輔・水尾比呂志

『月刊民藝』は、日本民藝協会の機関誌として、昭和一四(一九三九)年四月に創刊、同一七年一月から『民藝』と改称されて同二二(一九四六)年七月発行の第七〇号まで刊行された。ただし、第六九号は不詳である。本資料によって、世界の生活文化史上希有な事跡と考えられるべき民藝運動の、戦時下の実情を知る場を拓けるとともに、それを現在の生活文化に照応させて在り様を在り方を検証するよすがともなる得るだろう。

不二出版

〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 00160294084

●表示価格はすべて税別。

株式会社 紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 Kinoden 担当
TEL:03-6910-0518 FAX:03-6420-1359
〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 ict_ebook@kinokuniya.co.jp

取扱店

このひとすじの道

鶴見俊輔（哲学者・故人）

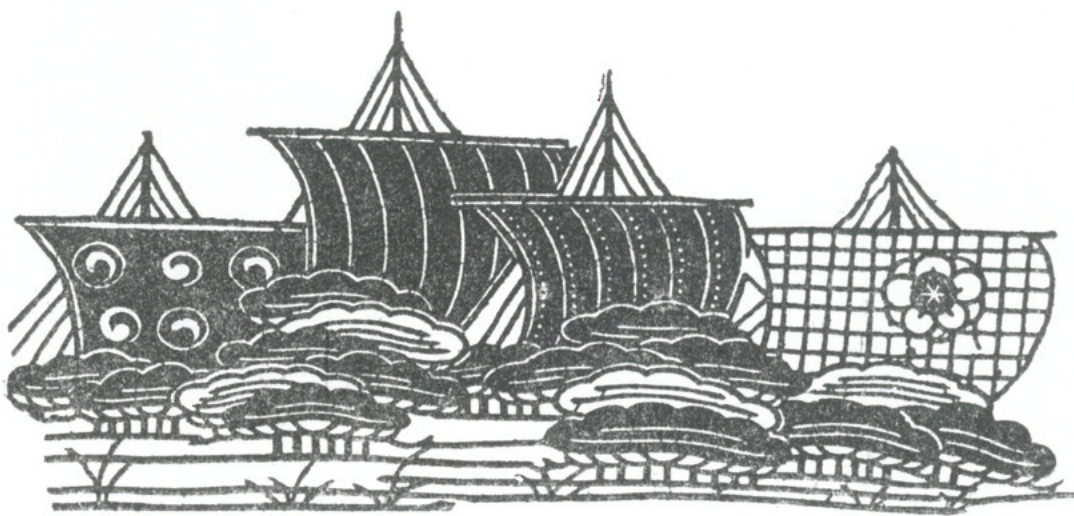
明治元年に、近代日本ははじまる。政府としてはそうだが、日本の文化としては、そうではない。明治元年以前の、とくに手仕事についての伝統に柳宗悦は、眼をひらかれた。そのことが民芸運動のはじまりだった。

雑誌『工藝』は昭和六年にはじまり、『月刊民藝』は昭和十四年にはじまる。両年はそれぞれ、満洲事変（昭和六年）、日中事変（昭和十三年）に踵を接して発足しており、その時代の日本国内部の動きとの交渉の下に発行されて大東亜戦争終戦に至る。この長い戦争に対する柳の態度は『ブレークとホイットマン』のような小部数発行の雑誌の編集後記に明らかであり、大部数発行の『月刊民藝』においては、読み手によって多様に読める。しかし、明治以前からの手仕事を守るという態度で一貫している。

すぐれた手仕事への敬意。そのつくりだした器を心をこめて使う。どんなに生き方をさける。これらのことについての一貫性が民芸運動を支える理想としてつづいた。

それは、敗戦後の日本社会に対して、対立する理想である。

日本の知識人は、明治はじめに欧米の知識をとりいれて以来、〇〇はもう古いと言いつづけてきて、学習をくりかえしては、卒業することを習慣としてきた。その習慣は、米国に負けてその影響下におかれて以来、さらに深まった。柳宗悦と彼に啓発された民芸運動は、日本の知識人の運動としてはめずらしく、何々は古いと言っけくりかえし卒業する風習から自由であり、戦後からさらに遠くはなれた今日の日本文化の中で独自の位置を保っている。



家紋と琉球型紙の小間絵（第19号より）

日本各地はもとより、アイヌ、琉球、朝鮮、台湾、中国からヨーロッパまで『工藝』全二二〇号がとりあげた主題一覧

各号「主題」

●第一年	第一号	石皿	第三一号	茶碗素描	第六〇号	三国荘	第九〇号	支那影戯	
	第二号	民画	第三二号	倉敷の新作	●第六年	第一一號	染物	第九一號	米沢織物
	第三号	自在	第三三號	肥前大鉢大皿		第六一號	染物	第九二號	鳥取民芸
	第四号	看板	第三四号	船簞笥		第六二號	染付小品	第九三號	宋胡録
	第五号	茶碗	第三五号	台所		第六三號	築島絵巻	第九四号	南方支那染付
	第六号	丹波布	第三六号	ダッチ・タイル		第六四号	植物染料	九五号	法然上人御影
	第七号	北九州の徳利	●第四年			第六五号	野州石屋根	第九六号	川上澄生版画
	第八号	御厨子	第三七号	赤絵		第六六号	絵漆	●第九年	
	第九号	陶器の文字	第三八号	外村吉之介・柳悦孝の織物		第六七号	茶碗	第九七号	黄八丈
	第一〇号	山陰の新作	第三九号	民窯		第六八号	河井陶器	第九八号	仏教版画
	第一一號	木工	第四〇号	朝鮮模様		第六九号	朝鮮現代民芸品	九九号	琉球陶器
	第一二号	牛戸古陶磁	第四一號	苗代川窯		第七〇号	日本民藝館	第一〇〇号	琉球風物
●第二年	第二二號	李朝陶磁	第四二号	金工品		第七一號	棟方志功「華嚴譜」	第一〇一號	棟方版画
	第二三號	李朝陶磁	第四三號	高取窯	●第七年	第七二號	行燈皿	第一〇二號	陸中漆器
	第二四号	こざん	第四四号	書物工芸		第七三號	泥絵	第一〇三號	首里と那覇
	第二五号	金工品	第四五号	赤絵		第七四号	蓑	第一〇四号	曾我屏風
	第一六号	土瓶	第四六号	バーナード・リーチ素描		第七五号	古陶器	第一〇五号	支那陶画
	第一七号	絵馬	第四七号	日本の民芸		第七六号	古陶器	第一〇六号	アイヌ織物
	第一八号	布志名窯	第四八号	瀬戸水滴		第七七号	芹澤「どんきぼうて」	第一〇七号	アイヌ木工品
	第一九号	肥前染付猪口	●第五年			第七七号	濱田の茶碗	第一〇八号	東北民芸
	第二〇号	緋	第四九号	琉球染織		第七八号	文字	●第一〇年	
	第二一號	木喰仏	第五〇号	琉球紅型紙		第七九号	琉球の拓	第一〇九号	中世基督教芸術
	第二二號	民窯	第五一號	朝鮮菓子工品		第八〇号	朝鮮の陶画	第一一〇号	日本民藝館
	第二三號	朝鮮石器	第五二號	船木道忠の陶器、森永重治の織物		第八一號	柳（悦孝）の織物、棟方版画	第一一一號	李朝染付化粧具
	第二四号	芹澤銚介型染	第五三號	河井寛次郎・富本憲吉・濱田庄司、芹澤の染物		第八二號	朝鮮現代民芸品	第一一二號	樺細工
●第三年	第二五号	スリップ・ウエア	第五四号	菓子型		第八三號	古陶器	第一二三號	琉球でさあじ
	第二六号	漆器	第五五号	陶器	●第八年	第八四号	ざげち	第一二四号	朝鮮紙
	第二七号	茶碗	第五六号	朝鮮木工品		第八五号	李朝陶器	第一二五号	三代沢本壽染紙
	第二八号	石州雪州和紙	第五七号	奈良彩篋		第八六号	和時計	第一二六号	芹澤染絵
	第二九号	リーチ	第五八号	硯		第八七号	色染和紙	第一二七号	絵緋
	第三〇号	龍細工	第五九号	武州紙		第八八号	民間彫像	第一二八号	面
						第八九号	古丹波	第二九号	沖繩陶器
								第三〇号	大津絵